

ジェネリック企業から見た薬価

1. 価格制度の基本的な仕組み
2. ジェネリック医薬品の薬価設定
3. 薬価推移の背景
4. 薬価におけるそれぞれのメリット
5. ジェネリック医薬品の拡大に向けて

新規後発品の薬価算定

(1) 初収載の後発品の場合

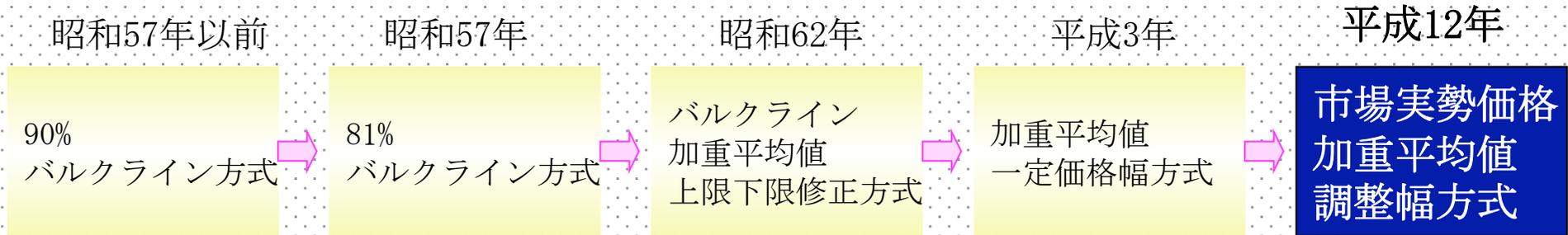
同一有効成分の先発品を比較薬として選定し、類似薬効比較方式（I）*により算定される額の**7割**に算定する。

*類似薬効比較方式（I）・・・新薬の薬価算定における原則的な算定方式

(2) 他の後発品が既に存在する場合

- ①組成、剤形区分及び規格が同一の既存後発品が20未満の場合：
薬価が最も低いものを比較薬として選定し、類似薬効比較方式（I）により算定。
- ②組成、剤形区分及び規格が同一の既存後発品が20以上の場合：
①の額の9割に算定する。

既収載品目の薬価算定



< 基本的な考え方 >

既収載品の薬価は、薬価調査の結果に基づき、薬価改定時に、次の算定式によって算定される額に改定する。ただし、改定前の薬価を上限とする。

【市場実勢価格加重平均値調整幅方式の計算方法】

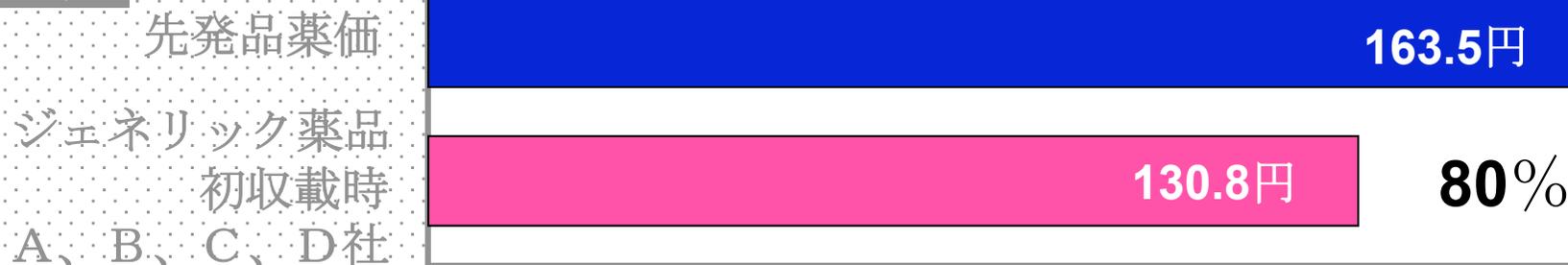
$$\left(\begin{array}{l} \text{当該既収載品の保険医療機関等における} \\ \text{薬価算定単位あたりの平均的購入価格} \\ \text{(税抜市場実勢価格の加重平均値)} \end{array} \right) \times \left(\begin{array}{l} 1 + \text{消費税率} \\ \text{(地方消費税分含む)} \end{array} \right) \times \text{調整幅}$$

【調整幅】

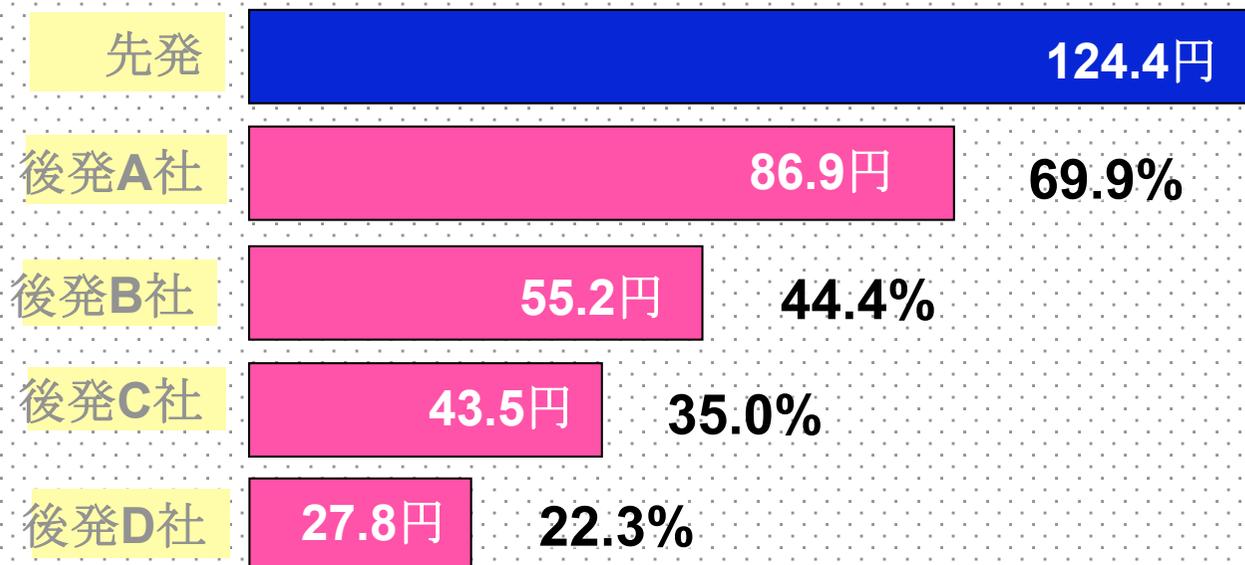
調整幅は薬剤流通のためのものとして加算。改定前の薬価に2%を乗じた額とされる。

ジェネリック医薬品の薬価推移

2003年



2009年



初ゾロ品 早くも現金問屋市場に流通

薬価追補直後から本格セールス開始に、市場関係者も驚き

平成15年 7月10日(木)

リスファクス

第3919号

RIS FAX

発行人 茂木 幹
編集人 藤田貴也
<http://www.nsfax.co.jp/>

㈱医薬経済社
103-0023
東京都中央区日本橋本町
4-3-1 サカエ日本橋ビル
TEL 03(5204)9070
FAX 03(5204)9073

●(C)当社の許可なく複写することを固くお断りします●

初ゾロ品 早くも現金問屋市場に流通

薬価追補直後から本格セールス開始に、市場関係者も驚き

東京・神田の医薬品現金問屋市場では後発品の薬価追補収載から1週間も経たないうちに売れ筋の初ゾロ品が出回り始めた。現金卸の大手とされるM薬品(東京・神田)はスタチン系後発品のうち最も安いもので対薬価50%の納入価格を設定、医療機関に向けて本格セールスを開始した。

ハスの後発品はT薬品約21%、S製薬約49%、T社28%。同一成分でも後発品銘柄によって割引率は大きく違うのが目立つ。

市場関係者によると、現金問屋の価格が安いのは現金仕入れで、在庫・送料、人件費などコストを極力抑えているためで、割引率は対薬価20%前後がこれまでの相場

本紙が入手したM薬品の「メパロチン、リポバスの後発品販売速報」と題する価格表には、後発品大手を含むメーカー3社の製品が掲載されている。それによると、メパロチン後発品の対薬価割引率(納入価格)は、T薬品(大阪)製品が割引率約19%に対して、S製薬(大阪)製品は約49%、T社(金沢)製品が50%。一方、リポバスの後発品はT薬品約21%、S製薬約49%、T社28%。同一成分でも後発品銘柄によって割引率は大きく違うのが目立つ。

が予測されます。商品は十分に確保致しましたが、受任後、到着まで3日~1週間程かかる場合がございます。在庫のある場合は即日出荷致します」と説明している。

薬価に対するメリット

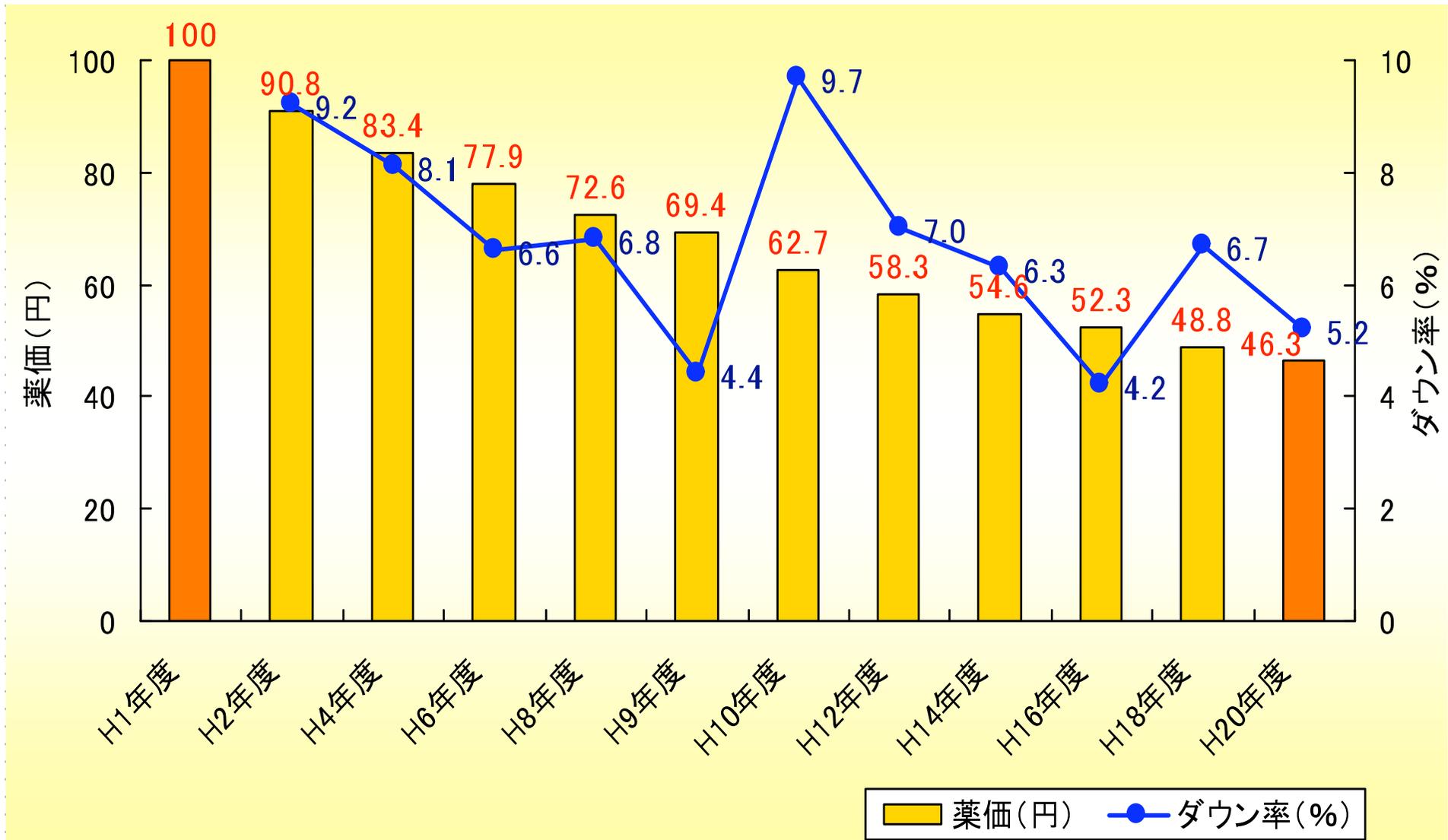
患者
国・支払い側 ☆自己負担分は低薬価
☆ 低薬価

医療機関 ☆DPCは 低薬価
★出来高(外来) 高薬価・差益

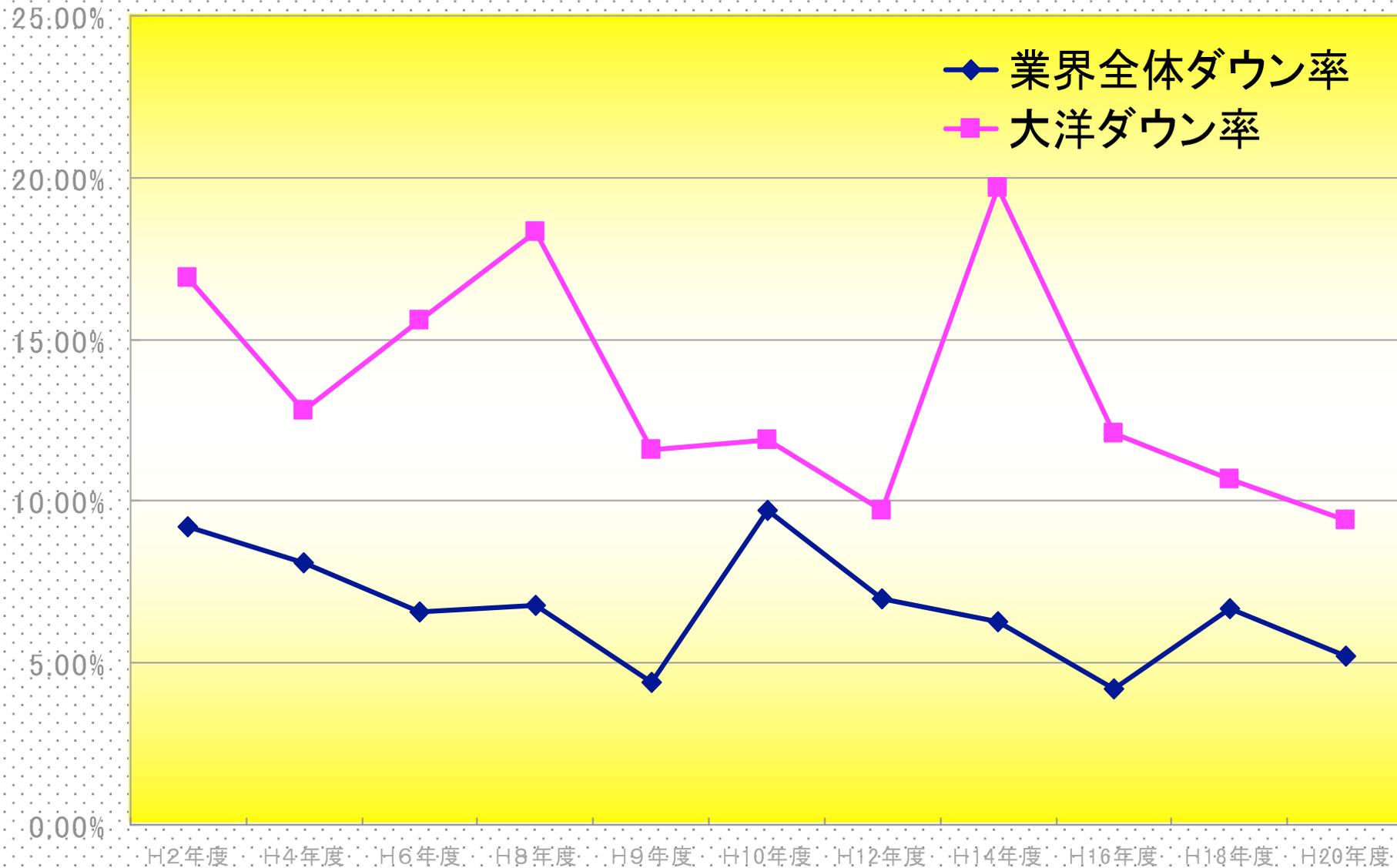
メーカー ★高薬価・差益販売→低価格
☆低薬価・DPC病院など

流通 ★高薬価・高リベート

薬価ダウン 推移 (業界全体)



薬価ダウン率 推移



錠剤：薬効分類別先発医薬品数量（単位：百万錠）

	薬効分類	全品目	長期収載品	比率(%)
1	血管拡張剤	5,603	2,894	52%
2	血圧降下剤	4,243	1,442	34%
3	消化性潰瘍用剤	4,232	1,862	44%
4	精神神経用剤	4,105	2,319	56%
5	催眠鎮静剤、 抗不安薬	3,301	2,643	80%
6	解熱鎮痛消炎剤	2,894	2,046	71%
7	糖尿病用剤	2,736	1,075	39%
8	高脂血症用剤	2,307	1,729	75%
9	その他の 消化器官用薬	1,645	661	40%
10	去たん剤	1,530	1,235	81%

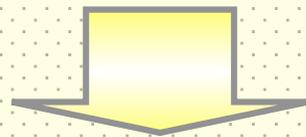
Best10薬効群数量	32,598	17,906	55%
	57%	52%	
錠剤総合計数量	57,616	34,474	60%

(H14年度データ)

ジェネリック推進への提案

<低価格で販売してもそれぞれにメリットが出る>

患者	先発品より明らかに低薬価	=	安価
医療機関	外来・出来高	差益を確保できる	
	DPC低価格で購入できる		
メーカー	低価格で販売しても薬価が下落がない		



<参照价格的考え・・・低い価格レベルでの固定価>
諸外国の価格なども参考に適正価格まで引き下げて
5年程度は固定価格とする。

ご清聴ありがとうございました



高山祭り (宵祭り)

2009. 6. 28